

「福井市総合計画審議会」 第1回 第4部会

■開催日時：平成22年7月2日（金）14：00～16：00

■開催場所：福井市役所 本館8階 第8会議室（A）

■出席者：別紙のとおり

■会議内容

1. 開会

司 会

それでは定刻となりましたので、ただいまから福井市総合計画審議会第1回専門部会第4部会を開催させていただきます。本日はお忙しい中お集まりいただきまして厚くお礼を申し上げます。

私は本日の司会を務めさせていただきます総務部政策調整室 黒田でございます。どうぞ、よろしくお願いします。

2. 市民憲章唱和

司 会

まず最初に、市民憲章を唱和いたしたいと思います。皆さんご起立いただきます。

市民憲章は、会議次第（福井市総合計画審議会第1回全体会議と書かれた資料）の裏面に載せさせていただきます。

私が前文を朗読いたしますので、それに引き続きご唱和をお願いいたします。なお、5つの項目それぞれに設けてあります実践目標についても、合わせて唱和したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

————— 市民憲章唱和 —————

ありがとうございました。ご着席ください。

それでは、政策調整室長の吉村があいさついたします。

3. 室長あいさつ

事務局（吉村室長）

皆さん、こんにちは。政策調整室長の吉村でございます。第1回の審議会全体会を6月1日に開催して、総合計画の諮問案を示させていただいたところでございます。

その前に、ちょっと議会などもありまして、ちょっと間が空きましたけれども、今日から部会の審議ということで、具体的な検討に今日から入っていただくような形になります。この部会の担当は、基本目標としては「みんなが生き生きと働く都市」ということで、産業ですとか、観光、そういったところが中心になってまいります。

本日は、それぞれの担当部局からも職員が来ておりますので、色々質問もしていた

だく中で、委員さん、皆さま方でご議論をいただきながら、より良い計画となるように、またご議論をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

司 会

それでは、今ほど説明がありましたとおり、市側のほうの出席者を紹介させていただきたいと思います。

まず、商工労働部次長の豊岡でございます。

事務局（豊岡商工労働部次長）

豊岡でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

司 会

同じく商工労働部労政課長の宮越でございます。

事務局（宮越商工労働部労政課長）

宮越です。よろしくお願いします。

司 会

同じく商工労働部マーケット戦略室の副課長田嶋でございます。

事務局（田嶋マーケット戦略室副課長）

田嶋でございます。よろしくお願いします。

司 会

続きまして農林水産部次長の土田でございます。

事務局（土田農林水産部林業水産次長）

土田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

司 会

同じく農林水産部調整参事の水上でございます。

事務局（水上農林水産部調整参事）

水上です。よろしくお願いします。

司 会

同じく農林水産部林業水産課主任の橋本でございます。

事務局（橋本林業水産課主任）

橋本です。よろしくお願いします。

司 会

よろしくお願いいたします。

4. 部会長のあいさつ

司 会

それではここで、部会長よりごあいさつをいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

桑原部会長

福井県立大学の桑原と申します。ちょっと座ってお話したいと思います。部会長という、いつの間にか役回りということなのですが、一応、自分の中では司会進行役ぐらいのつもりでお引き受けいたしました。皆様のご意見がまとまるようにというお手伝いをさせていただければと思っているので、どうぞよろしくお願いします。

司 会

よろしくお願いします。

5. 議題

司 会

それでは、ただいまから審議を始めていただきます。これ以降につきましては、部会長さんの方で、審議の方をよろしくお願いします。

【(1) 第1回審議会要旨】

桑原部会長

それでは、本日の進め方としてまず第1回の委員会要旨と追加資料の説明をしていただいた後に、皆さま方に、それについての検討をしていただくというのが本日の部会の主な流れとなっております。

では、まず事務局の方から、要旨についてご説明願います。

事務局 (吉村室長)

先日の審議会の会議録につきましては、事前に送付をさせていただいておりますけれども、かいつまんで、振り返りだけさせていただきますと思います。

審議会でございますが、32名の委員で構成しまして、4つの専門部会に分かれて第六次福井市総合計画の案を審議していただくことになりました。

今回の計画でございますけれども、第五次総合計画が平成23年度で終了するというところで、平成24年度からの計画を、今回は5年間を計画期間とした第六次総合計画の策定をお願いするものでございます。

今回の計画のキーワードとしては「ともに手をたずさえる」、「笑顔が輝き続ける」、「生活安心」の3つを掲げておまして、「ともに手をたずさえ、笑顔が輝き続ける生活安心都市ふくい」というのを将来都市像と設定して、案として示させていただいているところでございます。

それから、将来都市像を実現するための基本的な考え方として「協働によるまちづくり」、「情報の共有と透明性の確保」、「効果的で効率的な行政運営」の3つを挙げております。

そして、将来都市像を実現するために、組織を基準とした目的の体系化を行っておりまして、基本目標は将来都市像を実現するための手段として4つ掲げております。そのうちの1つが本部会で担当します「みんなが生き生きと働く都市」ということになっております。

そして、その下に、その目標を達成するための政策ということで、この部会では「活力と魅力あふれる商工都市をつくる」「福井の魅力を発信する観光都市とする」「快適で豊かな農林水産都市をつくる」こういう3つを政策として掲げ、それぞれの政策を達成するた

めに施策という形の項目を設けております。

それから、全体会議での主な意見としまして、第五次総合計画の数値、指標の達成状況をお示ししましたけれども、言葉で全体の総括をしてほしい、というような要件ですとか、部会ごとに20、30年後のビジョンがあったら示してほしい。それから福井らしさがほしい、など、色々なご意見をいただきました。そのうち資料として用意できるものにつきましては、事前に送付をさせていただいておるところでございます。それは、また後で説明させていただきたいと思います。今回は、そういったことで、基本的な諮問案の中身の説明を中心にさせていただいたところであります。以上でございます。

【(2) 追加資料説明】

桑原部会長

ありがとうございます。では、追加資料について、続いてお願いします。

事務局 (吉村室長)

追加資料でございますけれども、全体会議で色々資料を出させていただいております、その続きということで、通し番号で資料の番号を振らせていただいております。今回は資料9から資料13までを追加資料ということで事前に配付をさせていただいております。

資料9でございますが、第五次総合計画の施策ごとのまとめというものでございます。施策ごとに、文章で総括をさせていただいております。その施策を設けた経緯ですとか、あるいはどういうふうな進行をしている。それから市民意識調査の満足度ですとか重要性なども盛り込みながら、最後のところでは六次総合計画には、どの項目に引継のかと、そういったまとめ方をさせていただきました。

それから、資料10は、基本目標についての、20年、30年後のビジョンということでございます。今回は5年計画でございますが、20年、30年後を見据えた中での総合計画をするべきではないかというご意見を聞く中で、こういったものを示してほしいということでございました。しっかりしたビジョンと言えるかどうか、ちょっと自信がないところもございますけれども、項目ごとに、将来的に、こういうふうになっていただかないかというものをまとめさせていただいております。

それから、資料11は、第五次総合計画と第六次総合計画の相関図でございます。基本的には目的の体系ということで、方向性を示したという形の、くり方は同じですが、ちょっと組み換えを色々しておりますので、その相関を、ちょっと、図で示したものでございます。

それから、資料12。地区別人口の増減でございます。これは国勢調査をもとに、地区別の人口の増減を示したものであります。昭和55年から平成17年、25年間の公民館地区ごとの増減を示したものでございます。今年、ちょうど国勢調査を平成22年にすると、これからするということですので、最新の国勢調査の結果は17年ということで、そこまでの25年間の増減を示したものです。地図のほうですけれども、人口が増えているところは青い色、それから減っているところは赤い色ということで、それぞれ増減率の多いものが濃くなっている。濃く青い方が増えているのですが、赤いほうが減っている人が多いということで、減っているのは中心部。それから中心から離れたところということで、その間のところがドーナツ形に増えているというような、25年間での増減率になっております。一部地区は、ちょっと、統計がとれていないので、一光については、安居と一緒にっており実際とは合わない地区も若干はございますけれどもその点はご了承ください

い。

それから、資料の13でございますが、これは第六次福井市総合計画の諮問案の、補足の資料というような形で、その計画の案の、それぞれの政策ごとに、現状と課題、それから政策の方向性をまとめたものでございます。この後、進めるときには、こういったものをまた活用しながら進めていただきたいと思います。追加資料の説明は以上でございます。

【(3) 検討会】

桑原部会長

続きまして、審議を行っていきたいのですけれども、第1回目ですし、ちょっと、肩慣らしではないですが、皆さま方に、自己紹介がてらに、どういう福井像を考えていらっしゃるのか。今、ご説明いただいた資料に対して、何かご意見がある場合でもいいですが、お一人ずつ、一言いただければと。野坂さん、いかがでしょうか。

野坂委員

正直、これだけの資料を短期間に読みこなすということに、私は慣れておりませんので、準備いただいても、読んでいても何か頭に入らんかなというのが実態です。

関連するとしたら、会社を経営しておりますので、商工関係的な意見はある程度言えるかなというのと、観光コンベンションの仕事をお手伝いしているので、ここでも色々観光ビジョンをつくるのにもご協力しましたので、それについては少しお話しできるかなと、いうくらいに思っています。農林の方は、さっぱり分かりませんので。ちょっと、あまりにも、快適で豊かなというところは、快適な農林というのはどういうものなのか、ちょっと、後で教えていただきたいなど、逆に思ったりもして、資料は読ませていただきました。

そういうことで、正直言って、これだけの資料を、とても慣れていませんので、ご協力できるかどうか、不安ではございますが、持ち分野に関しましては、精一杯意見を出させていただきます。以上でございます。

笈田委員

笈田でございます。私は福井市農協の方から、一応代表をさせて、農業者あるいは農業団体を代表して出させていただいたような次第でございます。この審議会の部会の中では、地域のこと、それから農業団体のこと、農業、産業のことなど十分にはお話しできていないかもしれませんが、その一端なりとも、皆さま方にご紹介させていただきながら、いい方向へ進むようにしていきたいなど。

副部会長さんが、農林業のことはまったく分からないということですが、最近では、農業の方も、商工関係の方も、何かニッチな部分が非常に増えてきてまして、本当に、体験型旅行とか、そういった部分で増えてきております。従来でございましたら、農林業と商工というのは、相入れないような形の部分もございましたが、ようやく統合された形で今後はいけるのではないかなという気もいたします。どうぞよろしくお願いしたいと思います。

宮田委員

宮田と申します。私は食育とか環境とか、そういう活動をしております。本当に普通の子育てをしている普通の市民ですけれども、子どもを育てる母親の立場で、何か考えを述べるのができたらなと思っております。よろしくお願いします。

榊原委員

福井県立大学の榊原です。今はまだ学生なもので、商業のこととか、農業のこととか、

本当にまだ全然知識がないのですけれども、ここで聞いた話、自分が発言したことを、もう一度、今の学生だとか、大人の方に意見をちょうだいしまして、その中で、またここに持って帰って議論していくというふうに、勉強していきたいと思いますので、よろしくお願いします。以上です。

吉田委員

吉田でございます。政策の⑮、⑯、⑰のそれぞれの項目、まず、商工関係に関して見ますと、福井の魅力は何だと。皆さんご存じのように繊維というイメージが、全国的に広まっている。それをいかに広げていくのかということが、事務局からの第六次総合計画で更に追及していく大きな、福井市の産業として考えられるかなと。それに伴って雇用の問題も色々関わってくると思います。そういった点での話をどういうふうに今後の福井市総合計画の中に盛り込めていけるのかなと、意見交換の中でまとめ上げられていければいいのではないかと考えています。

それから、観光関係ですが、井の中の蛙というのはおかしいけれども、福井に住んでいるから、その福井の良さというのがあんまり分からない。でも、色々とあちらこちら、用事で視察に行くと、福井の方がいいなと思う点もいっぱいあります。財政的な問題も付きまとうから、なかなか整備とか、あるいはまたアピール効果とか、できない場合もありますけれども、そういう観光資源的な部分がたくさんある中で、どうやったら施策が遂げられていくのか、また、福井市民としてどういうふうにアピールしていかなければならないのかという課題も含めて、この部会で意見交換できたらいいかなと考えています。

それから、農林水産関係ですけれども、私も一百姓の一人として、これまで携わってきました。米の自給率の問題を含めて、非常に大きな問題ばかりになっておりますけれども、輸出関連関係のことや国の施策的な部分で、大きく左右する問題であろうかと思っています。

いずれにしても、福井独自のブランド。スイカだとかナツメとか、ブルーベリーだとかと、模索して、これから売り込んでいこうという状況ですけれども、なかなかそれをブランド化して全国にアピールできるような量産態勢に入っていない。その辺がネックにもなるわけです。いかにアピールしながら、総合計画の中で盛り込んでいけるのか、というような課題提供をしながら考えていきたい。

桑原部会長

ありがとうございます。本日は3つの政策の中の2つ、特に「活力と魅力あふれる商工都市をつくる」ということ、「福井の魅力を発揮する観光都市をつくる」という2つの政策に特に焦点を絞って審議を進めるということで、具体的な審議の進め方ということで、何か事務局の方でご説明が……。

事務局（吉村室長）

一応追加で、こういったA3の資料を出させていただいております。このA3の資料の中で、一番上に基本目標、それから政策が書いてございます。それから右側には施策という部分がありますけれども、この部分が総合計画の案で書いてあった部分です。政策と施策ということで。

それから、資料13の部分で、現状課題、それから政策の方向性という部分でございます。これは1枚の中に入れさせていただきました。この部会では、政策⑮から⑰までを担当していただくわけですけれども、それぞれのA3の紙の中で、それぞれの項目の中での現状課題が、こういったとらえ方でいいのか。それを解決するための方向性としてこういったことでいいのか。そのための政策とか施策はこれでいいのかというような形で、中身

をまず考えていただいて、足りないものですとか、付けたほうがいいとか、あるいは中身として文章でこういった文章を少し直したほうがいいのか。多面的にそういった部分で、この中をまず見ていただきたいと思います。

それから、全体としては、この「みんなが生き生きと働く都市」ということで、この3枚のペーパーを作っているような形になりますけれども、この3つの項目立て、全体としてこれでいいのかと、そういった点でも最終的には見ていただきたいと思います。

上の方から広く最初に見るのか、それとも細かく見てから全体を見るのか、色々な見方はあると思いますけれども、皆さん、ざっくばらんに話し合いをしていただく中で、より良い方法をまた出していただければと思いますので。よろしくお願いします。

桑原部会長

そうですね、では、前回、大きいところから小さいところなのかとか、小さいところから大きいところなのかというご質問がありましたが、やっぱり身近なところから見ていくのが分かりやすいのかなということなので、まずは、この商工都市をつくるところですが、現状と課題のところ、これはやっぱり20年後、30年後を見据えたということなので、これはちょっと現在に偏り過ぎじゃないとか、もうちょっと20、30年後を考えると、ここよりもっと重要な問題があるよというものがあれば、ご意見をいただければと思います。

吉田委員

もう少し比較できる資料、第五次総合計画の進捗状況、例えば現状と課題の中で、五次総合計画の中でもそういった方針を立てながら今日来た。達成率とか、そういうのはまた見ればいい。それと比較して、ここのところはもう少し伸ばす、残していきたいというふうな部分も含めて、ちょっと何かその辺のコメントがあると、なお、ありがたいなと思います。

事務局（吉村室長）

資料9というのをお渡ししている中で、ここに入るのは10ページ、11ページの部分になります。11ページのところが「活力と魅力あふれる産業をつくる」ということで、商業と観光が一緒に入っていたものを、今回は2つに分けているような……。それから、10ページの「自然を生かした産業を育成する」、ここが、今回では17番目の「快適で豊かな農林水産都市をつくる」、こういったところに行っているようになります。

11ページのほうでは、数値指標としては交流人口ですとか、総付加価値額、こういったものは順調に増加している。

それから、市民意識調査でのこの重要度は真ん中で、満足度はやや上回っているような状況、そういう状況です。

それから農林水産業のほうですけれども、棚田オーナーなどが数値指標として上がっていますけれども、やや、下回っているような状況ということです。

それから、市民意識調査では、満足度では、ちょっと低いほうでありますけれども、重要度も直接従事している人が少ないせいもあるのかもしれませんが、重要度はあまり高くないというのが、一般の市民の皆さんは、思っているような状況です。ただ、農林については、やはり担い手の高齢化とか、後継者の不足とか、色々やっぱり難題はある部分であるのかな、というような状況とか思います。

野坂委員

商工行政なんです、正直、国にも経済産業省がありますし、中小企業庁もあるし、それから県にも商工労働部、今、川田さんが中に入って県でもまたいろいろビジョンを作っている最中で、市として、商工行政として何を受け持つべきなのかというのを、私がちょっと見えていない部分があって、確かに商店街のいろんな活性化への協力というのは、市としてできるのではないかなと思っております。産業という部分も、製造業に関して、どういう介入をしたらいいのかというのが、ちょっとよく分からないです。その辺、どういうふうに市としてやれる範囲、それが教えていただけるのであれば、ちょっと、お答えをいただけるといいんですけども。

事務局（田嶋マーケット戦略室副課長）

商工労働部、マーケット戦略室。お手元のA3の資料の施策というところでございます。地域の商工を振興するということですね。

昨年、県立大学の南保先生を座長に、地域資源マーケット戦略会議というのを4回やりまして、その中で福井市の企業の強み、弱みというところを洗い出し検討したんですね。その中で、一番テーマになったのが、福井市の企業は自己完結型が多い。連携が苦手だということなんです。ですから、そこで連携を強化しようということで、今年予算化しておりますが、そういった連携体に対する助成制度。これは国も新連携体への助成というのがあるんですけども、そういったことを深めるために、異業種交流であったり、ブラッシュアップのためのチームをつくったり、そういったことを今は進めているわけでございます。

それと、大きく、今まで製造業だけの誘致に対しての奨励制度というのを設けていました。これは3億円以上10億円以上とか、そういった大きな投下固定資産をされた、よそから来る企業に対して助成をしているんですが、なかなか産業に就く人も、テクノポートぐらいしかございません。あとは全部飽和状態のような状況でございます。国の成長戦略に合わせまして、そういった都市型産業と言われるものも誘致しようということで、今年の4月から条例改正をさせていただきました。

今までは、製造業以外は、コールセンターとか、ソフト開発とか、そういった事業にしか目を向けていなかったのですが、国の成長産業に合わせまして、いわゆる医療ツーリズムと言われる、よそから患者さんをお呼びするようなもの、あるいは新エネルギーを使っている発電ですね。当然、バイオマスであるとか、太陽光であるとか、風力であるとか、そういった発電をする産業についても助成をする。

あとは、農商工連携ということで、先ほどおっしゃった、非常に経済産業省と農林水産省との区分けがあって難しいところなんです、私どもとしては今、植物工場であるとか、陸上養殖、こういったものについても助成できるような制度に直しました。

それと、最近、非常に物流が昔と違っております。要は、楽天みたいなネットと、SOHOと、あるいは今までで言う運送業とがひとつになったような業者です。それについても助成をできるような措置を取っているところです。

結論といたしましては、やはり国のそういった施策に連動した市の施策を敷いていくということです。

あとは、ちょっと長くなって申し訳ないですけど、商業につきましては、国の方が最近、買い物難民、あるいは買い物弱者というふうな切り口で研究班を立ち上げましたので、私どももそういったことが商店街さんとしてのターゲットはお客さんになるんじゃないかということで、そういった今研究をしております。

事業としては、県民生協さんが8台ほどそういったコンビニ機能を積んだバスを導入な

されて、それをこれから20台に増やすとか、そういった取組がありますので、先日ちょっと見学はさせていただきました。

ちょっと、今は、私どものそういった新しい取組というか、それをちょっとご紹介させていただきます。

野坂委員

県とかの連携とかってというのは、福井県の施策の連携とか、そういうような形……。

事務局（田嶋マーケット戦略室副課長）

そうですね、県の最近の施策で一番新しいのが、建設業さんが異業種に参入したときに……

野坂委員

あまり事例がないんですね。

事務局（田嶋マーケット戦略室副課長）

助成を出すということなんですけど、そこは私どもの成長産業のほうで対応できる。連携というか、重複助成ですね、これがかなり効いているということです。

野坂委員

重複助成って何ですか。

事務局（田嶋マーケット戦略室副課長）

県も助成して、私どもも助成するということもありまして、これは企業誘致にとっては非常に効いているのではないかと。

吉田委員

これは進め方として、今、⑮番から先ということやね？

桑原部会長

はい。

吉田委員

それを前提にですけれども、これは現状と課題、先ほど取り組んできたのは、変更後こうですよ、というふうな感じだったと思うけど、これを一つのベースとして、これから六次の中に盛り込んでいくとするならば、まず点の1番、2番と番号を打ったほうが分かりやすい。企業立地受け皿となる産業の余地が少ない。これと、この次の、5番目になるのか、これは。成長産業をターゲットとした誘致活動とともに、工業団地開発と新たな受け皿づくりの整備が必要。これ、重複しているのかなという感じがしますが、この辺の整合性はどうしていくのかということ。

それから、今、福井市の現状からいくと、テクノパークはほとんどが埋まった。そして、もう一つは臨海の方にあるテクノポートのほうか、その現状なんかも、まだテクノポートに関しては、まだ空いているの。

事務局（田嶋マーケット戦略室副課長）

3区画空いている。

吉田委員

そのような状況なので、その辺をどう活用させていくかという、これはやっぱり売り込

まないと駄目だと思う。その辺の何か施策も考えてはいるかどうかは分からないけれども、空いているということは、長年空いているということは売り込んでない。あるいはまた、値段的な問題もあって、企業的な力の関係があって来られないのか、そこをところを分析しないと、ここでの誘致はなかなか難しいのかなというふうに思うので。それと、一番上のやつと、番号、2、4、5番目のとこと、どうリンクさせるのかな、という課題やね。

それから、この点の2つ目ですけれども、当然景気低迷、特にリーマンショック以降、景気低迷がしているということもあって、当然ながら商店街、中小企業に対しての支援というものは、当然引き続きやっていかなきゃならんのではないかなということを、私は思います。

それから、求人関係の職種が海外製造の方に偏っているということですが、これからの産業というのは福祉産業、これは福祉もそうだったと思うのですが、3Kの職場でもあるけれども、そういったところに、どんどん目を向けていかなければならないのか。合わせて、ここで働く人たちの労働条件、これを改善しなかったら、なかなか受け入れ側と、需要と供給等の関係、バランスが、今は崩れていると思うので、これは国の1つの施策の中でも訴えていくべき課題でもあるけれども、福井市として、独自として、それを援護していくような形のものを、雇用対策の一環として持っていなかったら、なかなか充実していかないんじゃないかなと思うので、その辺をどうえぐっていくのかなというのが一つの課題かなと思います。

ほとんどの企業は、企業倒産ということで、大きな飽食の時代と言うとおかしけれども、ある程度、社会整備、資本整備がされてきて、新たな流れが今、こういうようなところに行こうとしているということを考えると、やっぱりそういったことでの判断が必要ではないかなと思います。

それから、点の4つ目ですが、これも引き続き当然ながら支援できるようにしていく。毎年のように、色々と国のお金をもらいながらやっていくのも現状ですけれども、更にこういったところのバックアップも当然必要ではないかなと思います。

それから、もう一つ、全国の雇用情勢、若干改善の方向にあるなど。県外大学のUターンの15%前後で横ばいとなっている。これは、どういうふうにUターンしていただくために、どう売り込んでいくのかということが、なかなか見えてこないという部分があるので、当然、企業、福井市にはびこっている、あるいはまた福井県にはびこっている企業の、どういうのかな、中身というのか、それが良くないからなかなか帰ってこない。要するに、選ぶのでも、色々と限られた状況の中での雇用を、その大学卒業した、あるいはまた高校を卒業した、中途採用で差別された、辞めた、そういった方々が、福井の産業というものは魅力がないということでの、そういうような部分でUターンがないというものもあるでしょうし。いろんな形で考えられるんですが、例えば、六次総合計画の中で、Uターンをもっともっと増やすんだとするならば、どこに力を入れるのかという方向性を、ちょっと探していかなきゃならないのではないかなということを思うのですが。これは問題提起にとどめておきたいと思います。

それから、その次の点ですけれども、このサイトというのは、インターネット関係だと思うのですが、ここについては情報発信している企業側にも責任が逆にあるとするならば、そういったところに、企業側に積極的にそういう情報を流してもらうような協力体制をつくっていくような体制をつくり上げていく。というふうなことで、知名度アップにつなげていかなきゃならんということを、これからうたっていかなければならないのではないかなと思います。

それから、ハローワークの問題についても、ちょっと先ほど言いましたけれども、非常に景気低迷している。なかなか企業が、倒産件数も非常に福井市も多くなっている。求人倍率等々についても、この間の発表ですと0.73でしたか。まだ、この福井県の中ではいい方ですけども、全国的にもいいんですが、まだまだ状況は厳しいというような傍ら、企業倒産になっていっているというのが、かなりある。

そこで、こういう求人情報を出しても、なかなか職がない。特に今、若い者なんかでも、高卒でも100%ではない。ましてや大卒なんかいけば、雇用も100%じゃないという状況の中で、非常に苦しい状況にある。さりとてそれをフォローしていくためには、第六次総合計画の中で、どういうふうにフォローしてやっていくのかというような、方向性を出せばいいのかということで、非常に難しいんですが、基本的には企業が力を付けていくような施策を講じていかなかったら、雇用との関係が生まれてこないという事もあるので、そういうようなことをどうするのかなど。

特に、リタイア、リタイアという言葉は悪いのですが、もう40歳以上の方が、会社を首になった、雇用不安に、企業倒産にあって、あるいはまた自己退職して、ハローワークに行った。でも、ハローワークを通じて行くと、もう年だからといって、全然相手にしてくれないという現状があるということも聞いております。そういったところのフォローを、この六次総合計画の中で、どのような格好で盛り込んでいけばいいのかということで、課題を見つけてあげるべきじゃないかなと。こういう問題提起だけで、こうしなさいということは、ちょっと言えないので悪いのですが、そういったことを、一つ、みんなとね、意見交換する形の中で、この⑮番については、少しでも、ちょっと肉付けができればいいんじゃないかなと、そのようなことを思いました。

笈田委員

先生に色々と、経験豊富なことで、言っていただきましたが、僕は違った視点で、20年、30年後に、福井市がどうなっているのかというような中で、今、道州制も言っておられましたね。今、県都福井市というのを、常に頭に付けながら、我々は話していかねばなりません、道州制のあった場合には、県都なんて付けられるはずもない。そういった場合に、この福井市をとりまく市町村と競争状態になるのではないかな。そういった中で、福井市は本当にこれをどうしようと考えているのか、県との協力。その辺はどういうふうにお考えになっているのかなということが、一つお伺いしたい。

それがなければ、県都であるが故に、たくさんの方が福井市に居を構えておりますが、それがなくなりますと、福井市の商工関係も、何と言うんですか、売上なども、相当影響してくるんじゃないかということで、その辺、コメントをお願いしたいなと思います。

特に、膨張主義で都市化が広がっていった傾向がありますね。そういった中で、本当に都市計画などと、何と言うのですか、都市計画で、コンパクトシティと言っていますが、その辺との兼ね合い、それらがすべてリンクしていると思うんですけども、その辺を一つ、何かご提案のご提示をいただければ、ありがたいなと思います。

事務局（吉村室長）

都市計画的なまちづくりの部分は、ちょっと、別の部会の話というふうにはなるのですが、県都としての魅力づくりの一つとしては、やはり福井駅を降りたときの魅力と言いますか、そういった部分で、福井市だけではなくて、今、西口の再開発の議論の中でも、福井市だけではなくて、福井県全体を、ちょっと売り込むような、もっと県都として、広域的なことも考えていかなければいけない。そういう議論なんかもございます。やはり、福井県の玄関口として駅周辺の整備をする。この辺が、求心力と言いますかね、そういつ

た部分が必要な部分、新幹線でも同じようなことだと思うんです。金沢で止まってしまうと、例えば東京のほうから金沢へ直接行けるようになった場合に、みんな金沢で止まってしまう。そういったところも大事な部分ではないか。ただ、やはり県都と、中心部ですけども、やっぱり周辺の市、町とも、そういった意味では連携もしていく必要があるのかなと。

コンパクトシティということですが、最近はある程度コンパクトシティという言葉は使わなくなっている部分もあるんですけども、国土交通省では、集約型都市というような言葉を使っているようですけれども、例えば、福井市の中でも非常に市域が広い。中心市街地だけではなくて、やっぱりそれぞれ、周辺にも拠点となるような場所があります。コンパクトシティの概念と言いますか、基本的には、既存のインフラですね。今あるものを人口減少社会になってくる中で、なかなか税収なんかも、財源なんかも厳しい中で、今あるインフラを最大限に活用しようと。あるいは、適正に維持管理をする。そういった中で、さっき言いましたように、ちょっと、拠点、拠点はしっかり、交通網でしっかり結んで行き来ができるように。イメージとしてはそういうふうなまちづくりが、福井市の考えているコンパクトシティという形だと思います。

笈田委員

私が言いたかったというのは、常に言葉で出てくるのが、金沢とか富山のことが出てきましたよね、そうじゃなくて、春江町はなくなりましたが坂井市とか、その周辺との競争じゃないのかなと。そういった認識に改めないと。

確かに全体的には魅力を、福井県としての魅力を高める、これは、できたら言うことではないんですが、福井市としては、当然福井市の魅力を高めるというのを第一に考えて、そうすると、当然、その市、その近隣、市町村との競争になってくると思うんですね。限られた財源の中でやろうと思うと、当然、調整、協力していく部分と、競争する部分が出てくると思いますから、県都福井市だからというんで、殿様のような感覚でやられると、これは大変なことになってしまうので、その辺を、市民の市益、市民益と言うんですか、それを守っていただくという姿勢でお願いをしたいということです。

吉田委員

確認したいんですけど、先ほどから20年、30年って言っているけれども。これはあくまでも5年でしょ。

事務局（吉村室長）

先にはそういったものがありますけれども、計画は5年です。

吉田委員

とんでもない話だから、30年先のことは言われぬから。希望としては分かるけども。

事務局（吉村室長）

先を見ながら、今後の5年間でどうするかという意味です。

野坂委員

ちょっとよろしいですか。先ほどもちょっと吉田委員さんの方から現状の課題のことについての話があったんですが、特に企業誘致の受け皿、産業用地が少ないとか、4番目か5番目だったか、工業団地の開発と受け皿の整備が必要ということだったんですが、丹南の越前市に工業出荷高が抜かれて久しいですけれども、そんなに過去、そんなに福井市はそういう企業誘致や工業団地をつくるというようなことを、あんまり考えていなかったん

ではないかなと思う。過去の経緯はなんですかね。私もあんまりそういう企業誘致にそんなに熱心なような印象がないんですが。どこも一緒だろうと。ほかもみんな一生懸命やっているはずなんですけどね。

事務局（田嶋マーケット戦略室副課長）

そうですね。今、まさに製造品出荷等が抜かれたというのは、実は越前市というのは前からかなり高かったんです。福井市は負けていたというか。坂井市に抜かれたのは、平成18年なんですね。18年に逆転していて、それを今まで抜くことができなく来ている。

この原因は何かということを含め、色々、分析はしたんですが、正直、何がというのは分からないんですね。当然、坂井市にはテクノポートの方に、そういう大きい金属、貴金属のアルミとかがありますけれども、やはり、福井の特徴としては、まず従業員さん、あとは事業所数、これは第一が繊維なんですね。非常に繊維に特化しているということが、まず特徴です。坂井市であるとか、越前市については、化学とかの機械、電子などで、かなり効率よく稼いでいる。繊維については、非常に零細が多くて、なかなかそういった製造品出荷額を一気に押し上げるような形ではなく、全体で押し上げているという感じなんですね。

ご専門でよくご存じだと思いますけれども、ずっと中国に、工場として負けていて、どんどん、どんどん向こうに行ったという経緯があるんですが、これは私どもは専門家ではありません。地域経済研究所のご発表だったんですが、ずっと繊維はもう負けていたんですね、中国の安い繊維に。ところが、ちょっとリーマンショック前のデータなんですけれども、少し上向いてきたんです。それはなぜかと言うと、中国で安いものをつくるのと、日本で、福井で高級付加価値のものをつくるという棲み分けができてきたという。

ですから、セーレンさんが人工血管を繊維の技術を使ってとか、あるいは最近は炭素繊維とか、そういった付加価値の高いものをつくり出して、今までは負けっぱなしだったんですけども、少し伸びてきたんじゃないかと。しかも中国が工場から消費地へというような概念になってきたんで、これから少し伸びていくだろうというような……。

でも、そういったことがあっても、今、坂井市、越前市を巻き返すかというのと、ちょっとやそこらは、現実的には無理なものです。企業誘致等の絡みですけれども、色々やっているんですけども、テクノポートとテクノパークの違いは分析しているかというような、吉田議員さんからのご指摘があったのですが、テクノポートの方は非常に大きく、専門からいいますとものすごく特殊な工業団地であって、1つ呼んでくればどんという実績が上がるんですが、今、ずっとあそこは空白地域なんですね。ですから、ちょっとなかなかあそこへ来る企業が少ないもので、そこらが非常に私らの悩みです。

野坂委員

なかなか新しく工業団地を造って誘致するような時代でなくなっているのは間違いないんで、これを施策にしているのかどうかよく分からんですが、いまさらそう言ってももう遅いんじゃないかなと。過去はやらなければならなかったんじゃないかっていう話になっていって、なぜやらなかったのか。県としてはテクノポートにとりあえずやらなければならないから、余計に福井市はよくやってもらったというのがあったのかもしれませんが、そういうことがあってこうなったのかというのをちょっと質問したかったんですけどね。

事務局（田嶋マーケット戦略室副課長）

ここにはちょっと時間軸が書いていないんです。今、5年後といいますと、やはりどこ

かを少し開発しなければならないのではないかなという考えは持っております。当然、候補地としては、やはり市街化区域にしか工業用地も造れないので、それを造るとしたら、どちらかというとは北インターの方ですね。松岡のあちらから市街化区域を引っ張ってくるようなことが現実的じゃないかなと、そういう分析をしています。

事務局（吉村室長）

棲み分け的にいうと、テクノパークは後で福井市が造ったので、どちらかというとは福井市内にもともといた人の流出を防止するためにちょっとまとめた、ちょっと小区域に。そっちは埋まったけど、県の大きいやつは埋まらない。

野坂委員

空港のところも空いてますし、県もその気になったらまた1つ造る可能性ありますから。

事務局（田嶋マーケット戦略室副課長）

今、製造品出荷額の競争をどうのこうの言って、この前も都市マスの会議では、委員長が、福井市がそんなことをしても駄目ですよ。範囲は嶺北圏で考えろと、そんなこともちよつと言われました。

野坂委員

今はおっしゃられるように、頑張らないと。あまり言っておられるような状況では推移しないんじゃないかなというのがご意見じゃないかなと思いますけどね。あまり殿様気分ではやっている、よそのところにみんな流れてしまうよという状況だろうと思いますけどね。

吉田委員

ここで、1つ聞きたいんだけど、何か商工関係でどういう企業、今、心当たりがあるの。

事務局（田嶋マーケット戦略室副課長）

今、やり方としては、600社、うちが条例改正した成長産業をターゲットに、アンケート調査プラス私どものパンフレットをお送りして、そこから少し返事が返ってきたところに対して誘致をする。ただし、場所についてはこちらから提案するような形で、ここどうですかという形で持っていかなければならないんですけども。今は空き工場とか、そういったものを斡旋しております。

野坂委員

新しく造成するといってもお金がかかるので、空いている工場に入ってもらったら何か助成するとか、何かそういう。

事務局（田嶋マーケット戦略室副課長）

それは考えています。

野坂委員

考えて誘致する。そういう中で、都市型産業で、通常工場というイメージじゃないような企業誘致する。

笈田委員

植物工場というのはどんなもの。

事務局（田嶋マーケット戦略室副課長）

植物工場は、形態的には3パターンございまして、普通はビニールハウスみたいになります。それと、少し鉄骨組んだ自然光を入れるやつです。それと、まったく人口の光でやる、その3つを今、私どもは類型化しているということで、でもビニールタイプみたいなのは農業の方の1次産業型ということで、助成対象は、今、少しがっちりしたやつ、あるいは自然光だけでやるやつですね、そんなことを今のところ考えています。

野坂委員

京都のベンチャー企業、見てみると背の高い建物なんか誘致しやすい。そんなところは完全に滅菌状態にしてやるような感じですね。だから、中国縦貫道ができるのなら、中京周辺に出荷するというので、その辺から誘致するのもおもしろいかもしれませんね。

宮田委員

何か私たち普通の市民の感覚とちょっとギャップを感じてしまっているんですけども、例えばこれは、これからもプラス成長が続いていくと見ているのか、私たちはもうこれからマイナス成長の時代だと思っているんですけども、そして人口もどんどん減少していくのに、大量生産、大量消費の時代が終わると思っております。それなのに企業を誘致して、いっぱい物を作ってどうするのかなというのと、人口が減って5年後とか20年後は、すぐじゃないかもしれないですけども、コンクリートの廃虚を残すのか、また緑の自然とか命を残すのかという。私たちは後者の方を見ているんですけども、これはどちらかというと前者の方を見ているなという感じで見ておりました。そういうどちらの方向というか、目指すのかなというのが、まず方向性として必要なというのは思います。

榊原委員

中小企業、商店街に対する融資制度は、今のままではいけないのかなという気持ちと、あと大卒のUターンの問題ですけど、Iターンの方はどれくらいあるのかな、そんなにUターンにこだわる必要があるのかなという問題が1つです。

あと、県内の企業の情報サイト、認知度が低いと書いてあるんですけども、要はその認知アップというのは、誰に対しての、学生に対しての認知度なのか、それとも社会人がリタイアされたときの認知度というのかどうかということも教えていただきたいと思います。

事務局（宮越商工労働部労政課長）

今のうち、この共通認識で、U・Iターンについては、別にUターンだけにこだわっているわけではなくて、Iターンでもいいと思います。Iターンでもウエルカム、来てくれたらいいんですけども、人数的に見ますと、U・Iターン、学生、社会人合わせまして、最近の数を見ますと、毎年1,000人前後はU・Iターンということで福井の方に帰ってきておられるという形になります。

先ほどからずっとお話、いろんな方から出ておりますように、人口が減少化していく中で、要するにこういった形で市に定住していただく方を増やしていきたいという考えは持っております。もちろん、先ほど言いましたように、特にUターンだけにこだわっているわけではありませので、もちろんIターンということでも。

もう一点、サイトの認知度のお話ですけども、県内情報サイトも幾つかございます。もともと対象は、今現在幾つかあるのは、いわゆる就職を求めている大学生の方を対象にしたものが多いということで、企業の情報紹介サイトということではなくて、どちらかというと就職・求人サイトといいますか、そういった意味で、どうしても特定というところかいいんですけども、そこを探す人は関係ないかもしれないですけども、それが企業情

報ということでいうとなかなか難しいなということで、こういった事業をさせていただいたわけです。

事務局（田嶋マーケット戦略室副課長）

ちょっと質問から、先ほど人口減少、成長がストップするというお話だったんですけど、福井市が品物を作っている総額、製造品出荷額ということなんですけど、それを従業員当たりで割りますと、全国平均が3,900万円ぐらい作っているのに、福井市の場合は2,700万円ぐらいしか作っていない。ということは。やはり付加価値の低いとか、あるいは会社が零細であるとか、そういったことが課題であるんですね。それをもっと付加価値の高いものを作っていけば、人口が減っても少しまだ成長できると、そういう考え方でございます。

あと、融資制度でございますが、これは非常に、かなりよその市よりも取組が強いといえますか、利子補給制度というのもありますし、借りの場合は信用保証というのがあるんですけど、そういった保証料の補てんもあります。この両方をやっているというところはあまりありませんので、企業誘致とかも連動して、非常に有利な融資制度になっているということでございます。

野坂委員

今、宮田さんからそういうお話があって、じゃあ20年後はどうするかという形になると福井に住めなくなる可能性はありますよ、収入がなくなれば。これは税金が入ってこないとやっていけないという問題もあるので、なかなかそのところは、そういう話になると、こういう活力、魅力ある商工都市をつくるという項目自体が要らないんじゃないかという話になってしまうんじゃないかなという感じはしましたね。これがいいかどうかという問題はあと思っています。

ただ、このむしろ人口減少の中で、逆に都市間でどこが生き残っていけるか、どこが魅力があるか、それがもう非常に大切になってくるので、なおさらやっぱり都市の魅力というものもここへ落としていかないと、どこへも住める可能性はありますからね。

だから、そういう時代になってくるという具合に私なんかは認識しているので、やっぱり食えなきゃどうもなりませんし、それから収入は上がらないと生活できないんですから。そういう面ではやっぱり避けて通れない問題でないかなと思います。やっぱり、じゃ、福井市なりの将来像を確認して、産業をつくっていくか、そういうところで魅力を感じてUターン、Iターンができるまちにすると。これはものすごく大きなテーマであるので、これは、私は逆に見えます。

笈田委員

ちょっと前までは都市間競争ということで、福井、金沢、富山と、そう思っていましたけど、これはもう競争になりません、はっきり言いまして。やはり金沢うんぬんということよりも、福井市がどうしていくのかという、福井がこの地域の中で生きていくのかという話をしないと、もうとても金沢、富山にはかなわないと思います。

僕が学生の時分、人口がそんなに変わらなかったですね。そんなに変わらないということはないんですけども、福井が20万ちょっとで金沢が30万あるかないかぐらいでしょう。それが今はもう相当な差になってしまっていますし、それをどうのこうのと言うんじゃないくて、やはりこの嶺北の中で福井がどうやっていくのかというのをやはり真剣に考えないと、都市間競争にすり替えをしていたのでは駄目だと私は思います。

桑原部会長

じゃ、まとめに入りたいなと思うんですが、この中で色々ご意見をいただいた中で、競争から連携ということも1つだと思います。先ほどありましたように、既存のものというのをもっと活用するということに重点を置くべきだ。書いていただいた現状とか課題という、私も吉田さんと同じで、この1番、6番、一緒じゃないかなというのが。並べ替えも必要かなと思うんです。

今あるものをもう一度洗い出しをして、分析をし直して、どこが弱みなのか、どこをどう戦略として必要に持っていくかということをしないと、今からつくるといふ、また産業用地が少ないから、じゃあつくろうかという方向ではないんじゃないかというところがあるかなと。

その根底にあるのは、たぶんIT産業のこれだけの普及によってとか、物流体系が変わるでしょうということと、人口構成が大きく変わりますというのが外の背景としてあった。それに対応して、福井の中でどう変わっていくかというお話になるんだと思います。そういう意味では、第2次産業としては、産業用地をつくるということよりは産業用地をPRする、この1番のところですけども、産業用地をつくるというよりは何か分析をしたり、次なる、融資制度とかありますけど、そういう支援策が、何が企業側にとって魅力的じゃなかったのかというのを考える必要があるのではないかな。

第3次産業に関しては、若者というより、ターゲットをもう少し絞って、買い物弱者というところに目を移すという方が、商店街の活性化はもちろん必要なんだろうけれども、そこの方に重点を置いていくことが必要なんじゃないかなということでしょう。あとは雇用面で言えば、若年者層とか高齢者層がより働けるような場所をもっと増やしていく。特に福祉産業を逆に重視していったら、その中での雇用環境を向上させていくことの必要性とか、あとは後継者育成というところに重点を置く必要があると思います。ここらではたぶん守りのところなのだと思うんですけども、攻めの方としては、やっぱり高付加価値産業という部分と、都市型産業というお話がありましたが、守りと攻めと両方入れていくといんじゃないかなとは思っています。

この辺の文章作りはやってくださるということだったので、こういう意見が出ましたという形で、⑮番の政策のところはひとまず置いておきたいと思います。

続きまして、⑯番の政策のところ、「福井の魅力発信する観光都市福井をつくる」というところなんですけど、同じように、書かれた現状とか課題に対して、これはちょっと近視眼的過ぎるんじゃないかとか、これからの環境が変わっていく中で、もっとこういうふうに変えた方がいいなというご意見がありましたら。

野坂委員

ちょっと観光都市という言葉がおこがましいなという感じがしているんです、申し訳ないけど。とてもまだ全国的に言っているようなレベルかどうかというのは、もちろん朝倉氏遺跡なんかは非常に全国級なものはないことはないんですけど、そういう感じがするし、僕は引っかけます。

やっぱり住んでいる人が楽しまないと、ここがいいと思わないとお客がこない。福井の人がみんな思っているのかどうか。住んでいる人が魅力を感じるようなやっぱり観光施設にするには、かなりレベルアップしていかないと、なかなかお客は呼べないのかなという具合に心配しています。僕なりに思います。

だから、観光都市というにはちょっとまだおこがましいなという気がしています。

桑原部会長

笈田さんが先ほど何か、アグリツーリズムとか出ている、そういう新しい産業とか観光もありますけども。

笈田委員

産業まではいかないんですけども、一つの癒しにはなるかなと。これはまだ始まったばかりですから、今後育てていかなくちゃならないものだなというふうに思っているところですね。

桑原部会長

関東近郊の山梨県とかの辺りで、キャンプサイトみたいなところで……

笈田委員

ええ。うちが全部やっているんです。私の地域でもいろんな団体がありますね。大阪とか、あるいは京都ですとか、いろんなところから体験型のツアーという、田植えをしてみたり、県外からですと、そんなのはやってはいます。やってはいますけれども、それが産業かと言われると産業ではないかなということで、ちょっとクエスチョンかなという感じはいたします。

先ほど野坂副部会長さんがおっしゃいました一乗谷、何かあそこは特別名勝とか二つほどの指定があるのは全国に3カ所か4カ所しかないとかというのは聞いたんですけどね。

こちらで2つしかないと聞いて、それを聞いたからというんじゃないですけど、それを聞いたときに、私、見に行っただけですけど、あらためてあのところは行けばいいなという感じはしました。福井市民はその良さが分かっていないなという部分もたくさんありますね。まずは、もう県外がどうのこうのというより、我々市民がその良さを知らないから、その部分が伝播していかないのかなということはあると思います。

野坂委員

朝倉氏遺跡資料館の館長に商工会議所で講演していただいたのですが、今年のゴールデンウィークは過去に例がないくらい人が入っているんです。ソフトバンク効果というものもあるし、歴女というんですかね、歴史が好きな女性。だから、昔は各団体が観光旅行で来ていたのが、個別に訪ねる人が来たというような。

桑原部会長

第二の朝倉氏遺跡みたいなものはあるかもしれないんですか。

桑原部会長

朝倉だけではなくて、その産業遺跡みたいなものでも。繊維産業みたいなものを……

野坂委員

私、安田蒲鉾さんみたいな体験型はうけると思いますけどもね。

桑原部会長

結構繊維産業のルーツなどとか。

野坂委員

それは勝山がちゃんとやっていますから、いまさら福井でするのもね。

吉田委員

ちょっとここで聞きたいんですけども、このチョコボの4つ目。福井市の年間入り込み数で100万人を超える観光地がない。これ、1カ所だけのことでの意味なのか、全体的

な入り込み数ということを意味しているのか。

事務局（豊岡商工労働部次長）

ここで言っているのは、いわゆる100万人を超える観光地というのは……。1カ所の観光地として100万人を超えると、一応全国的には一流と言われるんですね、その入り込み数だけをカウントすれば。100万人を超えるものがないんです。今、お話ありましたけれども、朝倉でも50万です、年間。越前海岸もございますね、大きな観光地として。越前海岸もほぼ50万人。お隣の金沢兼六園はちなみに700万。圧倒的な入り込み数の差は、一流。その入り込み数だけ見るとなかなか一流とは言えない。

あと福井県内で1位になっているのが芝政の165万、東尋坊が134万、これ2つだけなんです、100万人を超えるいわゆる大規模な観光地と言われるね。永平寺でもそれほど多くないんです。60万ちょっとぐらいなんです。

吉田委員

意味がよう分からないんだけど、入り込み観光客合計数、各観光地の合計が274万3,000。観光地内容の内訳で、朝倉が今言ったように約50万、越前海岸で70万、合計すると159万6,000、月で。これ、どういうことなんだろう。

事務局（豊岡商工労働部次長）

観光地を全部ひっくるめるんですね、イベントも含めて。そうすると、だいたい270～280万人の方が福井市に来られると。もちろんイベントとしては、春祭りのイベント、夏祭り、フェニックスまつりのイベント、こういうようなものを全部入れる。それから、越前海岸、朝倉、主要観光地ですね。それにまちなか観光。まちなかはホテルの宿泊客数等について数値が出てきますので、それらをトータルすると年間で270～280万人福井市に観光客が訪れますよという意味なんです。

吉田委員

だから、これ、観光地だから、要するに朝倉氏遺跡とか、養浩館だとか、そういうところの集約では100万いきませんよと。福井市内で泊まっての人数だと150何万になるけれどもということなのね。

事務局（豊岡商工労働部次長）

1カ所でどれくらいという入り込み数は、朝倉で50万、越前海岸の一带で50万から70万。

吉田委員

すると、これは1カ所という意味？

事務局（豊岡商工労働部次長）

1カ所という意味です、ここで言っているのは。

野坂委員

この政策のテーマですが、どちらかというとならば福井の場合は、周辺とうまく連携した上で何かをするということにしないと、福井市が観光都市になるというイメージも僕はちょっと何か引っ掛かるなという気がするんです。大変申し訳ないんですけど、室長さんには。

事務局（豊岡商工労働部次長）

これはおっしゃるとおりで、福井市だけで勝負しようと思っても、お泊まりまでいただけるのかというと、なかなかいただけないので、周辺のそういった主たる観光地とセットで福井を売り出すと。そして、泊まりは福井で泊まっていただきますと。そういう仕組みをやはり今後、今も考えていますけども、考えていくことが必要なんではないか。広域観光ですね。特に嶺北、これは鯖江とか越前市、奥越、それから旧坂井郡、あそこらあたり一体的に取り込んだ広域観光が私どもの今後のテーマ、方向性です。

吉田委員

今、一体的なという、福井市は観光、坂井市やらあわら市などかなり金使っているわけや。その効果というのはどうなのかということはこれから出てくるんだろうと思うんですが、それはそれとして継続してやってほしいし、皆さん方が県外へ行かれて駅なりでどう感じられているか分かんけど、ほとんど福井の観光案内の教宣物はない。限られた、関西方面のちょっと一部ぐらいはあっても、特に関東方面だとか東北に行ったらなおさらない。金がかかるか、ショバ代がかかるかどうか、それは分かりませんが。そういうような状況の中で来てくれと言ったって、福井はどこにあるのと言われるみたいなもので、分かん。

インターネットで色々そういう検索して来る人はいいいけれども、やっぱり目の届く、誰でもが目に付くようなところに、福井のそういった観光のパフレットがあってちょっと見ようかという、それを仕掛けなければ分からない。立派な先生に今年なんかも色々制作費を出してやっているのだから、やっぱりそれらを生かすためには、色々そういうところに物を配置できるようなものを、その総合計画の中でこれからやっていくんだという姿勢を出さないと。

事務局（豊岡商工労働部次長）

そうですね。先ほどもソフトバンクの話が出ましたが、ソフトバンクのあのCMを手掛けている方に福井市のポスター、朝倉のポスターを作って、それを東京の地下鉄のところに張り出したと。それがきっかけでソフトバンクのCMも朝倉で撮っていただくことになったと。これは一つの成果としてあるのではないかなと思いますけども。これを去年やりましたし、今年もそういったことで著名な方にお願いをして、特に泊まりいただけるのはやっぱり関東方面のお客様だということで、関東方面を中心に知名度を上げるための政策、施策をやっていききたいと、そんなふうには、今、思っています。

中京、阪神はこれまでもやってきましたが、なかなか日帰りですべて終わるということもあって、やはり観光消費額を上げるのには泊まっていただかないといけない。泊まっていただくためには、やっぱり関東方面の方がこっちに来られた場合にはどこかで泊まる必要が出てくるということ。特に関東方面に少し集中してPRをしていくことが必要なんだろうなと思います。それは吉田委員がおっしゃったとおりでございます。

吉田委員

中部縦貫道路があるけど、そういった道路整備ということもこういった施策の中での訴えるというのは要らんのかな。それと新幹線の話も出たけれども、そういう道路整備によっての観光、誘客という表現というのはこういったところに盛り込まなくてもいいんやろうか。まあ、後で検討してもらえばいいわ。

事務局（豊岡商工労働部次長）

それじゃ、ご意見が出たというふうに。

野坂委員

ちょっと、コンベンションの誘致をするというのも、具体的に、コンベンションの誘致に力を入れるというのも。

事務局（豊岡商工労働部次長）

そういうのもありますね。コンベンションで大きな全国大会を福井に誘致する。そうですね。それはもちろん交通網が充実してくれば、福井で開催しようかという機運も盛り上がりますし。

桑原部会長

あと、この中で書かれているものでしたら、もてなしの意識とか、まちづくりリーダーとか、市民が何か観光に対してアプローチ、ここに視点があるんですけども、それに対しては何かご意見は。

野坂委員

だから、具体的な施策としてどうするかというものも盛り込まないかんですね。

事務局（豊岡商工労働部次長）

それはおっしゃったとおりで、市民意識が低いと。福井は何があるかと、いや、福井は何もないねという言葉ですぐ返答してしまうので、やっぱり福井市民自らが、先ほどお話ありましたように、福井にはこれがあるぞと、食べるものはこれだぞと、朝倉はこんなにすごいんだぞということを市民自身がPRに、メッセージャーになっていただくという仕掛けがやっぱり大切だろうと思うんですね。そうすると、やっぱり市民意識をどうやって向上させていくのかという、行政の方もそういう仕掛けをしていかないといけないんじゃないかなと、それはもう痛切に感じますし、以前でしたかね、市民意識調査をやったときに、観光振興を望む方が1割にも満たなかったと。ちょっと意識が薄い。

野坂委員

北陸3県は弱いですね、よそ者に対して。北海道は「よう来なった」と言うけど、福井はなかなかそうは、「何しに来たんや」というようなことを台湾の人が言っていましたわ。

事務局（豊岡商工労働部次長）

もっとも、福井弁で如才なく受け入れる、バリアを張らずにどんどん来てくださいよと。そして自らがおもてなしするような市民意識といいますかね、そういう心の醸成といいますか、そんなのがやっぱり必要なんだろうと思いますけどもね。

野坂委員

市役所の職員の方からひとつよろしくお願いします。

宮田委員

やっぱり住んでいる人が楽しめたり、また福井ならではのものをつくっていくことが、よそから注目されたりすると思いますけどね。

野坂委員

おっしゃるとおりです。まず、我々が楽しんでやっているところを見に来る可能性はあるんです。

事務局（豊岡商工労働部次長）

福井ならではの、例えば福井に食をテーマにするとたくさんものがありますよね。秋吉の焼き鳥も、これはテレビで紹介されましたし、越前海岸へ行くと大量に海産物が食べられるということもあります。我々も福井の食をいかに売り出そうかということは、組織を色々横断的に検討しようということで、今年それをまさにやろうともしておりますけれども、やっぱり福井の食をいかに売り出す、そして福井のものはこれやということをもみんなが発掘していかななくてはいけない。

今考えておりますその1つの中に、来年、NHKの大河ドラマで「お江」があるんですね。この「お江」に関連したお土産品とか食べ物とかいうものを少し発掘していこうと。コンテストでもいいんですけども、そんなことをやっていこうということは、今年の実業としてはあります。これが1つではあるんですけどもね。

榊原委員

今までのもの、観光素材の魅力を向上させるための仕掛けとありますけれども、具体的にどういうことをやってきたのかなというのがあるんですけど、僕らの中でやっぱり若い人に対して伝わってこないのがあるし、今までリーダーを育成するといった場合に、同世代の人たちがすごくやっていかなければならないことがあると思うんですけど、仕掛けを対外的じゃなくて、福井市の対象を何か絞ったリーダーづくりにした方がいいのかなと僕は思いますけれども。

事務局（豊岡商工労働部次長）

それは、今ここに、既存の観光素材の魅力を向上させるための仕掛けとしてやっておりますのは、これ、今やっているのは、朝倉を全国にもっと売り出そうと、知名度を上げていこうと。福井そのものの知名度が非常に低いですから、朝倉をきっかけにしてそれを売っていこうということは今やっておりますし、これまでもそういう意味では色々やっているんですが。

あと地域の方々がいろんな地域おこし、まちおこしでやっておりますけれども、福井市にはもともと夢プランという事業がありまして、公民館ごとに色々な事業をやっている。そこでもやはり観光を切り口にした事業を各地域でやっていただけないかなというところで、大きく観光に関連するような地域に対しては、うちの方から積極的にアプローチして、もう少し観光を目玉とした地域おこしをやっていただけないかと。もしそういうことをやっていただければ、そういったアドバイザーを送り込みますとか、一定の支援をさせていただくとか、そんなことは今やっていきたいと思っております。もう去年から少しそんなことも動いておりますね。人づくり、地域づくりというか、担い手づくりですね。

榊原委員

担い手づくりのやつですけど、小学生、ちっちゃい、幼いときからそういう福井なら朝倉氏遺跡、一乗滝とか、そういうものを継続的に何か勉強させるということが少ないんじゃないかなと。小学校のときにやっぱり1回しか行ったことがないので……。

事務局（豊岡商工労働部次長）

もう少し子どもさんの時代から朝倉に精通していただくという、大人になっても……

榊原委員

福井の偉人たちってほとんど知らない。僕もそうだと思いますけども、そこから各学校とか歴史……

野坂委員

学校とはもともと違うと思う。知らないことが一番の問題でしょうから。

桑原部会長

あととは何か。だんだんちょっとまとめに入っていきたいとは思いますが、観光都市をつくるということで、じゃあ福井市の中に住んでいる人がいかに自分のまちの魅力を知るかということに、知ってほしい。というところを落としどころとして何か施策を……。

では、この現状とか課題のところ、かなり入り交じって書いてはあるんですけど、今の状況ということと、これから何とかが必要であるということが結構ばらばらと書いてあるので、どっちに重点を置くのかなということが……。

じゃ、ここ5年間というのは、何か市として率先してというのか、市民をたきつける役割に市側としては回るというような感じに……。

事務局（豊岡商工労働部次長）

現状とか課題がここにぽつぽつとありますけども、それに対応して、施策の方向性として、今後こういうことを促進いたします、という構成にはさせていただいてはいるんですけど。

桑原部会長

あと、県外PRをもうちょっと効率的にということであるとか、コンベンションとかもありましたが、宿泊を意識したような形の提案をしていくとか、あとは来ていただいたときに、体験型もそうですし、食というのを今日もおっしゃっておられましたが、このあたりをもう少し十分に、もっともっと細かくということになると思いますけども。

最後に言っておきたいという方がいらっしゃれば、何か。

吉田委員

これ、みんなが共有していかなければならないと思う。もてなしの心というその範囲をちょっと確認しておいた方がいいのかなと思ったりもする。たぶんこれ、今後も出てくると思う。そのおもてなしの心というのは、どこまでの範囲を指して言うのかな。

この間もがっかりしたのは、APECがあって、そのおもてなしの心って誰が言うてたかというのは忘れたんやけど、何やといたら、掃除をきれいに、これも一つのおもてなしかもしれんけども、それだけかと思ってがっかりしたことを……。

そういう意味での誘客するための、観光都市を目指していく福井市民にそういった気持ちを醸成していくための範囲というのは、だいたいアバウトでどういう思いを、このもてなしの心という考え方を持っておられるのか。

事務局（豊岡商工労働部次長）

最終形は、福井市民運動として市民のレベルまで浸透させるということが必要なのかなと思いますけれども、いきなり市民運動、おもてなしの心を展開するといってもなかなか、ある程度のスパンが要ると思いますので、まずもっては観光に絡む業者さんですね。宿泊業者であるとか、観光に絡むお店屋さんですとか、そういうところが、自らがもっと観光の誘客のために何ができるのか、何をすべきかということを考えていただく。そんなところから入っていけないかなと思いますけどもね。

桑原部会長

結構難しくないですか。おもてなしとは何ぞやというのを。

笈田委員

普通の宿泊施設であり、販売所であれば、おもてなしがすなわち自分に即返ってくるんですけども、福井市民のおもてなしというのはいったい何ですか、具体的にどういったふうに返ってくるんですかと言われると、具体的に言われても、こうってはなんだけど、答えるのは難しいんじゃないかなと。

野坂委員

観光ビジョンをつくったときのイメージとしては、国体があったでしょう、昔。あのイメージであったなという気がしますけどね。

事務局（豊岡商工労働部次長）

自分たちのまちをきれいにするのもおもてなしでしょうし、言葉1つでも、片言でもいいので英語をしゃべって、外国の方が来られたときには、そういった気持ちを少しでも前に押し出すような意識も必要でしょうし、いろんな形でおもてなしというのはあるんだろうと思いますけどね。

おもてなしの心得というのは、何か標語みたいなのを作った方がいいですか。

桑原部会長

人によってたぶんレベルが違うと思いますし。A P E Cのためにお掃除をなさるとするのは、今ちょっと感動しましたね、逆に。

吉田委員

ホテルを営んでいるとか、料理屋をしているとか、そんなのは当然やろうと思います。そんなところにいまさらおもてなしの心。これは受け入れ側として、市民としてこうしていこうという部分なのか、それとも行政としてそれを積極的にやっといこうと、取り組んでいこうということなのか。

ということになると、私は、少なくとも市民そのものが県民性の中で、市民性の中でおもてなしの心、漠然としている。たぶんそういうことやろうなと思って言っているだけやけど、色々と気遣いしながら、悪い影響を与えないように、少しでもいい効果が出るような形の中で受け入れてあげるといのか、そういう形での助成をしていかなあかんのですね、たぶんね。

事務局（豊岡商工労働部次長）

県民性とすれば、根底にはそういうことは持っているんでしょうけどね、福井県民そのものは。県外の方に良くしてあげたいという気持ちは皆さんお持ちになると思いますけども、いずれは市民運動的なこともやっていかななくてはいけないのかなと思います。

商工会議所さんと連動して、連携して、福のくにゼミナールというのをここ2年ほど開催していますけれども、そこではやっぱり宿泊業者も、交通業者も、タクシー関連の人たちも、皆さん声掛けて、専門の大学の観光の教授に講義をしてもらったり、ほかの土地から派遣してもらったり、そういうゼミナールの形で、おもてなしを含めて研究会とか勉強会はここ2年連続でやってはいます。

野坂委員

そういうものに参加する人は意識があるんです。

事務局（豊岡商工労働部次長）

なかなか声掛けしても参加していただけないのはちょっと苦しいんですけども。

桑原部会長

だったらおもてなしを、業者向けであつたり、市民向けであつたり、色々あると思いますし、経験するのがいいのかどうか分からないんですが、福井の方で足りないのは市民の方、市民レベルのおもてなしというのか、外の人からは感じられないんですね。

笈田委員

こういうことで書きますと、これ、対外的に書いているんですというのではありますけれども、対内的にこれを読むと、市の職員が市民をおもてなしすると解釈されますので。

事務局（宮越商工労働部労政課長）

市の職員は市民をおもてなしするということか。そうとられてしまう？

笈田委員

うがった理解をするとですよ。

吉田委員

観光客に対して……。これでいいのかな。漠然とでいいんやろうか。変なこと言うけど、ごめんの。ある程度何かそういう共有していた方がいいのかなと、聞かれたときに、どんなんやと言われたときに。ばらばらの答えでいいのならいいけど。

事務局（豊岡商工労働部次長）

福井市民に自信を持ってもらおうということですね。福井のことについて多く語れるようになっていただくと。朝倉についても、現場へ行って、親戚でも来たら、朝倉の説明は10分でも20分でも自分ができる、それぐらいのレベルにはなってほしいなと思いますけどね。みんなが考えてくれるようになるというかね。

野坂委員

具体的にもうすでにインフラの面でしなければならない部分も出ているとは思いますが、西口開発に合わせて市の総合案内所を作らなあかんという、それはやっていたかかないと、来られてもどこへ行っていいか分からんということになりますので。

それから、やっぱり大型バスが止まれる施設がないので、それも広くしますと。

もし予算があるんでしたら、韓国語と中国語と英語ぐらいの標識にしていくぐらいのこともせな、これから中国も、少なくとも英語ぐらいは入っていないとあかんという。英語もない。

事務局（豊岡商工労働部次長）

交通標識ですね。

吉田委員

交通標識やら案内板やら。

事務局（豊岡商工労働部次長）

誘導サインですね。これらも少しずつですけども、やってはいるんですが。

朝倉については、今そういった多方面から来られる交通標識を、県の土木なんかにも話して英語バージョンのものにしていただくようにはしています。

桑原部会長

これ、まとまるんでしょうか。お任せということで。

【(4) 次回までに準備するもの】

桑原部会長

以上でご意見いただいたかと思うんですが、次回の審議会までに何か準備するものとかがありましたら。

吉田委員

この⑰番は？

桑原部会長

はい、次回にします。

事務局 (吉村室長)

今日いただいたご意見などは、また最終的に会議録にまとめますけども、全部のものも大変だと思いますので、ある程度要点だけまとめたようなものですとか、あるいは直す案みたいなもの、できましたら、また各委員さんにお送りします。

桑原部会長

では、これにて、じゃあ本日の審議は……

【(5) 次回日程等】

司 会

次回の皆さんの日程の方を調整した結果、まず第2回目の会議ですけれども、7月13日火曜日になります。10時から12時まで。場所については、未定でございます。すみません、皆様の日程の方は、全員の日程というのが合いませんでしたので、申し訳ございませんが、2回目が7月13日火曜日10時から12時まで。

そして、第3回目は、7月28日水曜日になります。夕方です。午後6時から8時まで。こちらの方も場所が未定でございます。場所の方、決定次第、またご連絡させていただきましますので、よろしくお願いいたします。

吉田委員

28日は審議会があるので欠席で

7. 閉会

司 会

それでは、以上をもちまして、第4部会の第1回目の専門部会の方はこれで閉じさせていただきます。皆さん、どうもありがとうございました。

(以 上)